

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：13802

研究種目：若手研究 B

研究期間：2010～2012

課題番号：22792140

研究課題名（和文） 卒前・卒後の一貫した医療安全教育モデルの構築

メタ認知能力育成への早期暴露に向けて

研究課題名（英文） Construction of medical safety education model continuous

from pre- to post-graduation stage

— Toward early exposure to meta-recognition ability training —

研究代表者 山本 恵美子 (YAMAMOTO EMIKO)

浜松医科大学・医学部・助教

研究者番号：50464128

研究成果の概要（和文）：

卒前・卒後の一貫した医療安全教育のモデル構築に向けて、卒前・卒後の教育ニーズを抽出することを目的とした。その結果、入職直前に複合的な看護技術教育の場を設け、自己判断による単独行動の危険性を学習するための思考育成が必要であることを明らかにした。以上から、卒前教育に協同作業認識を高め、チームへのアクセスがスムーズに行えるような教育プログラム開発の必要性が明らかとなった。さらに卒後教育として、医療安全に関する気づきの発信、対応や提案を行うための行動化に向けたスキル学習を構築する必要性が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to extract needs of pre- and post-graduation education programs to construct medical safety education model continuous from pre- to post-graduation stage. The results of this study showed that training of thinking to learn the risk of “independent action based on self-judgment” by setting up the nursing skills education program just before starting work. It suggests the necessity of development of the pre-graduation education program that enhances “co-operative work” recognition and facilitates “team work”. In addition, it suggests the necessity of development of the post-graduation education program that enhances skills to recognize medical safety cases and to manage them.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：基礎看護学

科研費の分科・細目：基礎看護学

キーワード：医療安全、看護基礎教育、新人看護師、メタ認知能力

1. 研究開始当初の背景

1999年に続いた医療ミスをきっかけとして、医療事故は大きな社会問題となり厚生労働省を始め各機関において医療事故予防のため取り組みが行われてきた（小栗，他，2008）。国家レベルでは、新たな政策や制度が策定され、臨床においては、医療安全管理者が配置され、今日では、医療安全の質が問われる時代である。

看護基礎教育においても、カリキュラム改正が進められ、教育機関の講義の場合「体系的な教育プログラム」を準備する必要がある（鮎澤，2007）、卒前に「専門職としての準備」（安全に関する基本的な知識と技術）と「安全管理に取り組む組織の一員」（医療安全管理体制の内容など）を教育する必要がある（鮎澤，2007）。安全管理教育は、確立したのではなく、常に変化し続けており、変化に対応した教育を準備し続ける必要がある。このような状況の中でさらに医療安全を推進するためには、卒前・卒後の一貫した医療安全教育が重要である（石川，2008）。看護基礎教育では、実践的な医療安全トレーニングとして、危険予知トレーニング（KYT）や根本原因分析法（RCA:Root Cause Analysis）等が導入され方法論としての教育は進んでいる。しかし、臨床現場では、危険回避のために状況に応じた判断力や実践力、および安全な対処行動が求められる。卒前・卒後のそれぞれの段階で実施すべき医療安全教育を明らかにすることが求められている（石川，2008）。

2. 研究の目的

本研究の目的：卒前・卒後の一貫した医療安全教育のモデル構築に向けて、卒前教育と卒後教育についてそれぞれの求められる教育を抽出することを目的とする。看護基礎教育

で不可欠な医療安全教育や、臨床に繋がる教育の重要性が明確になり、卒前・卒後の一貫した効果的な医療安全教育のモデル構築に示唆を得ることを目的とする。具体的には、(1)新人看護師の看護基礎教育と臨床現場とのギャップの要因を抽出、(2)5～10年目の看護師を対象とした医療安全の学習プロセスを抽出、これらの結果をふまえ、500床以上の総合病院に勤務する新人看護師、5～10年目の看護師を対象とした実態調査を行う。

3. 研究の方法

(1)新人看護師を対象とした面接調査

研究方法：半構成的面接調査。500床以上の総合病院に勤務する新人看護師10名。

研究成果：新人看護師として組織に参入する中で看護基礎教育とのギャップは、以下の4つであった。「複数の患者を同時に受け持つこと」、「時間に追われ思うような看護ができないこと」、「情報量の多さ」、「優先順位の立て方」。これらのギャップを感じながらも、「自分のリズムで仕事を進められるようになる」ことにより余裕が生まれ、ベテラン看護師の業務の進め方を参考にスキルとして取り入れていた。自己解釈による単独行動がエラーの誘発を招くことを、臨床経験・指導を通して実感し、行動前に再考し、カルテなどの確認行動、先輩看護師へのアクセスといった行動修正のスキルを獲得していた。

(2)ベテラン看護師を対象とした面接調査

研究方法：半構成的面接調査。対象は、500床以上の総合病院に勤務する5～10年目の看護師10名。

研究成果：入職以降、様々な業務の経験を経て、後輩の入職を契機にアイデンティティの変化が生じ、特にリーダー業務の経験を境にブラックボックスからガラスボックスへと組織の可視化が生じ、組織の一員としての

アイデンティティの確立に至っていた。その過程で、医療安全に対する考え方が変化していた。トップダウンの医療安全対策に対し協調的に看護することで、再生産に寄与しながら自らの看護実践の多様化が生じていた。

(3) 医療安全に関する質問紙調査

研究方法: 東海・北陸・甲信越・関西地方の500床以上の総合病院のうち了承の得られた42施設に勤務する新人看護師及び5～10年目の看護師を対象とした質問紙調査。

調査期間: 平成23年12月～2月。

新人看護師を対象とした調査内容

卒前教育の実態: 医療安全科目履修の有無、卒業直前の看護技術の復習機会等。新人看護師の組織適応: 就職後業務に適応した時期、相談する相手を選ぶ際の変化等。1) 「協同作業認識尺度」協同効用、個人志向、互惠懸念の3因子18項目(長濱ら, 2009)。2) 「認知的熟慮性 - 衝動性尺度」10項目。(滝間・坂元, 1991)。3) 医療事故に関する学習状況を想定した「学習におけるメタ認知尺度」メタ認知的知識、メタ認知的活動の2因子10項目(松寄, 2002)。

5～10年目の看護師を対象とした調査内容

看護師の業務に適応してきたプロセス、状況判断できるようになったと感じた時期等。

分析方法: 記述統計、各尺度得点を算出。協同効用因子の平均値により高低群の2群に分け、各尺度得点でt検定を行った。統計ソフトは、SPSSver. 16.0 Jを使用した。

倫理的配慮: A 大学倫理委員会の承認を得て実施した。研究への参加は、自由意思に基づくものであり、辞退により業務上の不利益を受けないことを文書で説明し投函により同意とした。

研究の成果: ①有効回答383名、男性24名、女性359名、平均年齢23.59歳(SD±3.46)実務経験平均9.6カ月。ベテラン看護724名

② 卒前教育の実態

新人看護師を対象とした調査で、「医療安全に関する科目履修」ありの解答は63.3%、「実践現場に役立った」の回答は86.9%、「看護技術の復習機会があった」のは62.3%であった。

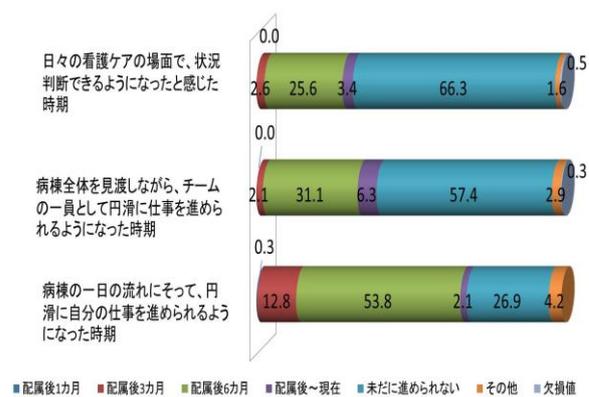
表1. 看護基礎教育の内容と医療事故学習におけるメタ認知の比較

		メタ認知的知識				メタ認知的活動			
群	N	Mean	SD	t値	p	Mean	SD	t値	p
看護技術を卒業前に復習する機会	あり	231	4.43	0.73	-0.60	7.92	0.86	0.95	0.43
	なし	140	4.44	0.67					
医療安全に関する単元	あり	151	4.54	0.73	2.36	1.67	0.92	0.02	0.10
	なし	186	4.35	0.69					

卒前に看護技術を復習する機会があったものとの比較は、有意差はなかった。医療安全に関する単元を受講していた者は、医療事故学習におけるメタ認知的知識得点が有意に高かった(t(381)=2.36, p=0.02)

③ 組織への適応

状況判断できるようになった時期として66.3%が「未だに進められない」と回答した。



組織への適応は、「相談する相手を選ぶ際の変化」について質問項目を設定した。「変化があった」と63.3%が回答した。さらに、話やすそうな看護師、聞きたい事を知っている看護師を選んでいった。

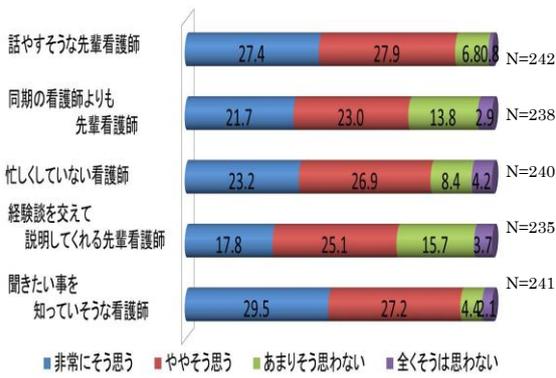


図2. 分からないことがあった場合の相談する相手の変化

④ 相談する相手の変化の有無における

協同効用因子得点の比較

表2. 相談する相手の変化の有無における協同作用因子得点の比較

(N=377)

群	N	協同効用因子		個人志向因子		互惠懸念因子		
		Mean	SD	t値	p	Mean	SD	t値
相談する相手を選ぶ際の変化の有無	変化あり	239	4.09	0.45	2.80	0.61	1.83	0.72
	変化なし	138	4.00	0.47	2.68	0.60	1.82	0.64

相談する相手の変化の有無における、協同効用因子得点について独立した t 検定の結果、「変化あり群」が有意に高かった ($t(381)=1.81, p=0.072$)。

⑤ 協同効用因子得点と各尺度の比較

表3. 協同効用因子得点と各尺度の比較 (N=383)

群	N	認知的熟慮性-衝動性尺度		メタ認知的知識		メタ認知的活動		
		Mean	SD	t値	p	Mean	SD	t値
協同効用因子	高群	185	26.73	5.54	4.50	0.71	4.38	0.92
	低群	198	25.61	4.34	4.37	0.71	4.10	0.80

協同効用因子得点の高低群による t 検定の結果、認知的熟慮性 - 衝動性尺度 ($t(381)=2.22, p=0.029$)、メタ認知的活動 ($t(381)=3.15, p=0.002$) 共に高群が有意に

高かった。

ベテラン看護師自信が、「一日の流れにそって円滑に仕事を進めるようになる時期」は、6カ月～1年後で約6割をしめ、「チームの一員として仕事を進めるようになる時期」は、1年後と3年後に分かれた。「状況判断ができるようになったと感じた時期」は、3年目が最も多かった。

考察

卒前教育は、看護技術の復習が行われていたが、医療事故予防にむけての直接的な影響は、医療安全の单元内で行われている内容がメタ認知的知識に影響を与えていた。

- 医療安全に関する講義の履修は、実践現場に役立っていたが、状況判断を必要とする高度な看護実践能力の獲得に向けては時間を要している実態が明らかとなった。

- 組織適応は、相談する相手に変化があったものは、他者との協同作業を肯定的に捉えている傾向にあった。

- 医療安全行動は、協同で作業を行うことを肯定的に捉えている者が、慎重な行動をとり、事故予防に向けて自らの認知行動をモニタリングシコントロールしていることが明らかとなった。

- 相談する相手に変化があった者は、チームへのアクセスが行われ、安全対策において具体的な指導を受ける機会を得ることに繋がると考える。

卒前教育に協同作業認識を高め、チームへのアクセスがスムーズに行えるような教育、卒後教育として医療安全研修等で拡充した行動レパトリーを実際のチームでの行動実践につなげる教育方法を開発する必要性が示唆された。

4. 研究成果

現場に適応でき看護師として安全な医療

を提供するためには、入職直前に複合的な看護技術の教育の場を設け、自己判断による単独行動の危険性について学習する機会を設けるなどの思考の育成が必要であることが示唆された。現在の卒前教育は、看護技術復習の機会に留まっているため、臨床現場への組織適応を促すような医療安全をベースとした教育の必要性が示唆された。卒前教育に協同作業認識を高め、チームへのアクセスがスムーズに行えるような教育プログラムの開発が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計6件)

1. 山本恵美子, 新人看護師が臨床経験を通して獲得する医療安全に関する学習プロセス日本看護学教育学会誌 22 巻学術集会講演集 Page308 (2012. 07)
2. 山本恵美子, 新人看護師の協同作業認識が転倒予防対策に関わる安全行動に与える影響. 医療の質・安全学会誌 .7 巻 Page390 (2012. 10)
3. 山本恵美子 鈴木美奈 村松妙子 片山はるみ. 医療安全に関する卒前教育の実態ならびに新人看護師の組織適応に関する医療安全行動との関連. 日本看護科学学会学術集会講演集 32 回 Page 408 (2012. 11)
4. Yamamoto E, Suzuki M, Muramatsu T, Katayama H. Actual Situation of Post-Graduation Medical Safety Education and Adaptation of Novice Nurses to Clinical Works
The 16thEast Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 21-22February 2013 Thailand

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 恵美子 (YAMAMOTO EMIKO)
浜松医科大学・医学部・助教

研究者番号 : 50464128

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし